

静大研究者2人が選ばれる

マツダ財団助成 有田、中沢助教が抱負



マツダ財団の研究助成の対象に選ばれた中沢謙太助教(左)と有田祥子助教(右)＝浜松市中区で

次世代を担う若手研究者に贈られるマツダ財団の研究助成の対象に、ともに静

岡大工学部機械工学科の有田祥子助教(左)と中沢謙太助教(右)が選ばれた。十八

日、浜松市中区の静岡大浜松キャンパスで贈呈式が開かれた。

有田助教は、さまざまな形に変形する折り紙を使って、物質の収縮や展開の構造を解き明かし、衛星などの部品に適用しようとする目標としている。中沢助教は、携帯電話やゲーム機など、幅広い分野の機器に不可欠なデバイス「MEMS(メムス)」をより簡易に試作できる技術の実現に向けて研究している。

財団の六鹿彰吾事務局長代理(左)が「私たちの助成が、少しでもみなさまの研究の手助けになれば幸いです」と述べ、二人に記念品

と贈呈書を手渡した。有田助教は「夢の実現に向けて頑張りたい」、中沢助教は「研究に著実に取り組んでいきたい」と抱負を述べた。

助成額はそれぞれ百万円。二〇一八年度は全国で四百四十件の応募があり、三十七件が採択された。

(鎌倉優太)